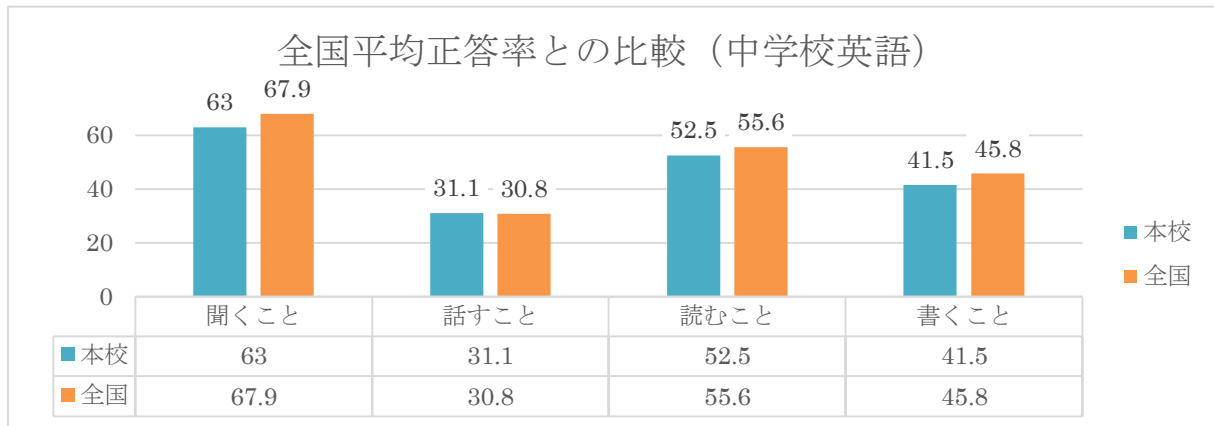


3 英語

(1) 結果

学習指導要領の領域等の平均正答率の状況（平成31年4月18日実施）



話すことに関しては全国正答率に比べ、+0.3ポイント、聞くことに関しては-2.1ポイントとほぼ同じであるが、それ以外の領域では全国正答率をやや下回っている。問題形式ごとの正答率を見てみると、日常的な話題について情報を正確に聞き取ること、基本的な表現を用いて簡潔に話すことについての正答率が高い。ただし、まとまりのある英文を読んでその内容を正しく捉えたり、与えられたテーマについてまとまりのある英文を書くことができていない。

(2) 各領域における成果と課題

聞くこと

・日常的な話題について情報を正確に聞き取り、内容を最も適切に表している絵を選択する問題の正答率は全国正答率並みであった。一方で、まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解したり、聞いて把握した内容に応じて日本語で意見をまとめる問題については全国正答率を5ポイント下回った。

話すこと

・月日に関する基本的な表現を理解して応答をしたり、自分の将来の夢についてまとまりのある内容を話したりする問題は、全国正答率を10ポイント以上上回った。一方で、適切にアクセントを置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して応答する問題では、全国正答率を20ポイント以上下回った。

読むこと

・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る力はある。しかし、量が多いまとまりのある文章を読んで要点を理解したり、文に書かれている内容を踏まえながら自分の考えを書いたりする問題は正答率も低く、無回答率も高い。授業の中で、まとまりのある英文を読んで要点をおさえることや、要約文を書く等の活動に取り組むこととする。

書くこと

・接続詞を適切に用いる問題や3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く問題は全国正答率とほぼ同じであった。しかし、過去時制の肯定文を正確に書く問題や、否定文を書く問題は正答率が低かった。また、与えられたテーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く問題は、ほとんど正しく書けておらず、授業の中で、まとまりのある文章を書く活動に重点的に取り組むこととする。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基本単語・表現・文法の定着を図るために毎時間小テストを実施する。1・2年の基本的な文法を復習しながら3年生で学習する内容につなげることが必要で、その際に口頭だけでなく、小テストなどで正確に書くことができるかを確認する。
- 既習事項の復習と英語のリズムを体得するために毎時間1・2年の教科書音読を継続して行う。
- 自分で考え、話す力を身につけるために **picture describing**（絵や写真を見て即興で英文を作る）などを授業で取り入れる。
- TTや少人数授業では個々の資質・能力に応じた指導を継続する。

【ご家庭では】

- 基本単語・表現・文法の定着を図ることが大切です。そのためには、Bノート（英語の家庭学習用ノート）に毎日取り組み、授業で行っている教科書本文の音読を家でも実施することを日課にしましょう。
- 文法事項の定着にはワークの問題を解くことから始めましょう。学校で使用しているワークで構いません。解いた後にすぐ答え合わせをし、やり直しをすることが大切です。
- 語学の習得は短時間ではできません。毎日欠かさず取り組むことが一番の近道です。